



1 / 当所の「相談・情報コーナー」 2・3 / 当所120年の歩みを、映像とパネルで展示 4 / 多くの来場者が、熱心にブースを見て回りました



まだ珍しい3Dプリンターの実演



ものづくり企業などによるパネルディスカッション



主催者の一人としてあいさつする北村会頭

宇都宮商工会議所創立120周年記念事業 ものづくり展示・商談会

特集2
ものづくり展示・商談会

次世代へ向けて、ものづくり企業が集合!

宇都宮商工会議所創立120周年記念事業「ものづくり展示・商談会」を開催

宇都宮商工会議所の創立120周年記念事業のひとつ「ものづくり展示・商談会」を11月14日(木)、宇都宮市のマロニエプラザで開催しました(協力/うつのみや産学官連携推進ネットワーク)。

この事業は、足利銀行主催の「ものづくり企業展示・商談会2013」と同時に開催したもの。当日の参加者は、約1,200人。マロニエプラザの大展示場には足利銀行や県内金融機関の呼びかけによる企業ブースが193社勢ぞろいし、自慢のものづくり技術を披露しました。

午前9時30分から始まった開会式では、当所北村光弘会頭も主催者としてあいさつ。「地域のものづくりは、地域経済に大きな影響を与える。これを機会に、より大きな発展を」と話しました。

会場には当所も相談・情報コーナーを設置。産学官連携推進事業や特許関係相談、環境関係相談(エコアクション21など)について、来場者に情報提供を行ったり、相談を受けたりしました。

ロビーでは、3Dプリンターのデモンストラーションが行われ、来場者の注目を集めました。

また、ロビーに隣接した展示ホールには、当所の120年の歩みをパネル展示しました。



主催団体が集合して、開会の記念撮影



午後1時から行われた講演会。講師をつとめた経済産業省関東経済産業局地域経済部の野口聡部長



来場者や出展者が親しく話すコーナーもあり、大盛況

午後1時からは「ものづくり有力新分野と宇都宮市産業の将来展望について」と題し、経済産業省関東経済産業局地域経済部の野口聡部長が講演を行いました。野口部長は栃木県や宇都宮市の産業の特徴にふれつつ、「宇都宮市の人口や小売年間商品販売額は増加傾向にある。道路など交通インフラや鉄道網も充実し、土地や水資源も豊富。観光資源にも恵まれている」と利点を挙げました。

その一方で問題点として「バブル以降、製造業事業所は減少している。特に中規模の事業所数は大幅に減少した。リーマンショック以降は、進出工場の閉鎖や集約が進んでいる」と指摘しました。

そして、得意分野を活かす新産業創

出支援として「航空・宇宙分野」「医療・介護分野」「エネルギー分野」を挙げ、そこから次世代の成長へつなげることの重要性を唱えました。

講演後に行われたパネルディスカッションでは、野口部長のほか、当所議員企業である富士重工(株)、加治金属工業(株)、東都工業(株)と、小型人工衛星の研究等で話題の帝京大学がパネラーとして参加し、宇都宮大学の野本准教授のコーディネートにより、航空宇宙関連産業を中心とした宇都宮市産業について活発な議論を交わしました。

問合せ
地域振興部
☎637-3131